

ふたば



感染防止の取り組み

当院では、新型コロナウイルス感染症による院内感染を防止するため、院内で感染対策を続けています。患者さんやご家族の皆さまには今後も感染対策にご協力をお願いいたします。

トリアージブースの設置

病院玄関において、トリアージブースを配置して体温測定等を行いました。発熱や咳等の症状がある患者さん用のトリアージブースを設置し、トリアージブースから直接、感染症患者用診察室にて診察、検査を行っています。職員は必要時フェイスシールド、ガウン、マスク等の个人防护具を使用し患者さんの対応をしています。院内ではマスクの着用をお願いしています。



手指衛生の推進

アルコール手指消毒剤の設置場所を増設し、患者さん等に手指消毒の声掛けを行っています。また当院では通常時より職員に対して手指衛生に対する研修会や手指衛生キャンペーンなどを行い手指衛生の推進を行っています。医療スタッフはアルコール手指消毒剤を個人携帯し必要な場面で手指衛生が行える環境にしています。



入院予定患者さんへの対応、面会制限(禁止)

入院が決まった患者さんに対して入退院センターにてリーフレットを使用して新型コロナウイルス感染症対策について説明しています。入院当日は検温、問診チェック後に病棟へご案内しています。面会者の方へは病棟で検温、住所の記入をしていただいています。(注：感染状況に応じて面会制限の取り扱いが変更となります。)

ソーシャルディスタンス

外来、病棟ラウンジ等で密を防止するために椅子を減らしています。

環境整備

環境からの感染を防ぐためドアノブ等の人が多く触れる高頻度接触表面の清掃を増やしています。

Wi-Fi 設置のお知らせ

院内にWi-Fiが利用できるスペースを設けました。利用方法は各設置場所にも掲出していますので、ご活用ください。

利用可能場所

ダイルーム (4階東、4階西、5階、6階、7階)
ラウンジ (2階)

利用方法

初回(登録が必要)

- ・Wi-Fi設定画面から“FREE_Wi-Fi_passport_J”へ接続する。
- ・「携帯電話番号」もしくは「携帯メールアドレス」を入力してパスワードを取得する。
- ・「ID」、「パスワード」を使用してログインする。
- ・性別、年代等の「登録」をおこなう。

2回目以降

- ・「ID」、初回に取得した「パスワード」を入力してログインする。



Wi-Fi
つかえます
Wi-Fi is available

循環器内科

充実した体制を生かし幅広い治療を実施

循環器内科は、「患者さんのために質の高い診断・治療を提供する」をモットーに、心疾患や末梢血管疾患を診察しています。虚血性心疾患には、スクリーニングとして運動負荷試験、負荷心筋シンチグラフィ、320列心臓CT検査を実施し、疑わしい場合、入院のうえ冠動脈造影検査を行い、適応があれば冠動脈インターベンション治療を行います。急性冠症候群では、迅速な再灌流治療が必要とされていますが、当院では24時間緊急カテーテル検査の体制を整えています。また、安静時の胸痛の原因となる冠攣縮性狭心症や微小血管性狭心症に対して、診断を明らかにするために冠攣縮誘発試験・冠血流評価を行っています。この疾患は40～50歳代の女性の方にも生じることがあります。

近年、高齢化に伴い心不全の患者さんが増加しています。緊急の処置が必要な急性心不全にも対応しています。また、多種多様な心不全の原因を検索し、可能な限り原因となる疾患を見つけ治療するようにしています。そのほか、高血圧（原発性アルドステロン症などの二次性高血圧を含む）、末梢動静脈疾患、徐脈性不整脈などの循環器疾患に幅広く対応しています。

また、外来・検査・病棟では、明るい素晴らしいスタッフと一緒に診療に従事しています。気軽に声をかけて頂ければ幸いです。是非御紹介頂ければ幸いです。



循環器内科 主任部長 寺川 宏樹 たらがわ ひろき

産婦人科

ケースごとに多様なケアを提供

産婦人科はこれまで女性医師2人体制で行ってききましたが、2020年4月から医師の増員があり医師3名（常勤2名、非常勤1名）での診療体制となっています。

産科領域では現在分娩が休止中であるため、外来で妊娠30週頃までの妊婦健診のみ行っており、原則妊婦さんの入院対応は行っておりません。病棟では地域の自治体と協力しながら、他院で出産後すぐに自宅での子育てに不安がある方への産後ケアや産後の母乳育児確立のための母乳外来に力をいれています。

婦人科領域の中では特に女性ヘルスケア領域（思春期～閉経周辺までの月経トラブル、更年期症候群など）に力を入れています。ここ数年で月経困難症や子宮筋腫に対する新薬が複数登場したこともあり、画像診断などと組み合わせながら薬物治療を行っています。また、結婚前後の方へのブライダルチェックも行っており、その後の対応（風疹ワクチン接種など）も可能であることから、カップルで受診される方が増えています。



産婦人科 主任部長 木谷 由希絵 きだに ゆきえ

このページでは、職員の紹介も交えながら、JR広島病院での取り組みを皆さまへご紹介します。第3回は、臨床検査科です。

診療部 臨床検査科

臨床検査科は、検体検査部門（生化学・免疫・輸血・一般・細菌・採血）、生理検査部門（心電図・肺機能・脳波・超音波検査・睡眠時無呼吸検査等）、そして病理診断部門（病理組織診断・細胞診・遺伝子検査等）の合計3部門において臨床検査および病理診断をほぼ院内で行っています。

各部門には、各種認定資格を取得した技師が在籍し、正確な臨床検査情報を提供できるよう努め、日々の内部精度管理や種々の外部精度管理に参加しています。日本臨床検査技師会精度保証施設に登録され、広島県医師会主催の外部精度管理調査では、一昨年、昨年と連続して最優秀賞をいただきました。

また、術中モニタリング（運動誘発電位・体性感覚誘発電位）や心臓カテーテル検査にも臨床検査技師が加わり、多くの職種と連携して院内感染予防対策チーム（ICT）・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）・栄養サポートチーム（NST）・糖尿病教室などを通じてチーム医療の一員として貢献しています。

臨床検査科の取り組み

常に正確で迅速な臨床検査データを提供するため、外部精度管理報告会（月1回）や勉強会（月2〜3回）、甲状腺カンファランス、エコーカンファランスなどを臨床検査科内で実施し、情報共有や技術向上に努めています。今後とも正確な臨床検査データを提供できるよう取り組んでまいります。

臨床検査技師
黒島 眞太郎

免疫血清学2級臨床検査士
臨床化学2級臨床検査士
心血管インターベンション認定技師



満足して検査を受けて頂くために 精度の維持と向上に貢献

病気を診断する上で、臨床検査は欠かせません。

正確、迅速なデータ提供に日々尽力する黒島臨床検査技師は、主に輸血検査と免疫学的検査の専門分野で、当院チーム医療の架け橋を担っています。委員会や研修会でも臨床検査に関する改善案を提示されるなど、学術活動も積極的に取り組む黒島臨床検査技師へ、当院での仕事内容を伺いました。

—臨床検査技師を目指したきっかけを教えてください。

幼少期から、化学的な実験や生物の仕組みなどについて非常に興味があり、学生の頃は化学・生物学が得意科目でした。また、中学の頃に、祖父の闘病生活を目の当たりにし、その頃から医療職に従事して人の命を救う手助けがしたいと感じておりました。医療職のうち、好きな分野の学問に通じる職業を探した時、臨床検査技師という仕事を知りました。

—当院の臨床検査技師としてどのようなお仕事をしていますか？

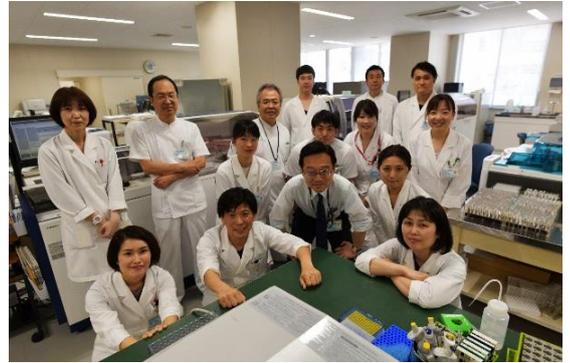
輸血検査と免疫学的検査に専従しています。輸血検査とは、輸血が必要になった患者さんの血液型などを調べたり、患者さんの血液と血液製剤の血液を混合し凝集などしないかを検査して適切な血液製剤を選択したり、輸血副作用が発生した際に早急に原因を究明したりする仕事です。免疫学的検査は、血中のホルモンや腫瘍マーカー、感染症などを検査しています。その他にも、生化学検査や心血管カテーテル検査・治療の介助なども行っています。また、看護部の継続教育の一環として、院内のスタッフを対象に輸血の勉強会を行い、知識の向上に努めています。

—普段心がけていることを教えてください。

臨床検査とは、医師が病気の診断や治療方針を決定するために行う、非常に大切な検査ですので、誤った検査結果の報告や異常の見落としなどがあれば患者生命の予後に悪影響を及ぼすことは言うまでもありません。日々、検査の精度を最善の状態に保つために検査装置の管理を行い、さらに最先端の医学の知識と技術を身につけることが大事だと考えています。

—今後の目標、患者さんへのメッセージをお願いします。

患者さんの外来での待ち時間を少しでも短縮するために、私たちは常に迅速で正確な検査を提供するよう努力しています。全ての患者さんが満足できる診療を受けられるよう、これからもその努力を続けていきたいと思っております。



連携医療機関のご紹介

広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）

当院は本年「地域医療支援病院」の名称使用が承認され、今後より一層地域の医療機関、関係機関の皆さまと連携してまいります。病院だよりにおいても連携医療機関のご紹介を行わせて頂きます。

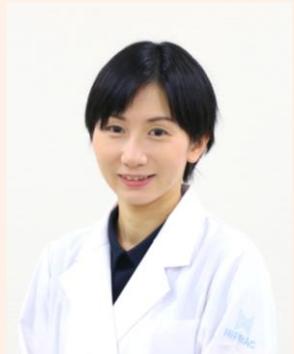
今回は当院隣接の「広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）」をご紹介します。

お話は当院外来でも診察を行って頂いている土井 歓子先生に伺いました。

センターの概要、当院との連携について

広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC：ハイブラック）は2015年10月に開設して以来、今年で5年目になりました。新規患者数が延べ3,000人を超え、毎日の治療患者数は60人程度と、大変多くの患者さんにご利用頂いております。

当センターは4基幹病院連携事業（広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院、広島赤十字・原爆病院）の一環として開設されましたが、全症例の約13%はJR広島病院からご紹介頂いており、東区の地の利を生かしたセンターになっていることをありがたく思っています。



土井 歓子 先生
(放射線治療専門医)

センターの特徴など

放射線治療の技術的進歩は目覚ましく、より安全で正確な放射線治療が出来るようになりました。特に当センターでは心臓や頸動脈、腸管、肺などの正常臓器への照射線量を低減させるために、強度変調放射線治療（IMRT）を駆使した照射を積極的に行っています。また、小型肺がんや小型肝臓がん、転移性脳腫瘍に対する定位照射（いわゆるピンポイント照射）も行い、最小限の副作用で最大限の治療効果が得られるように工夫しています。

「がん医療を より高度に より優しく」をモットーにこれからも患者さんに心地よくご利用頂ける施設を目指します。



(治療の様子)

広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）
センター長：永田 靖
センター医師：権丈 雅浩、土井 歓子、足立 佳範
住所：〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番2号
電話：082-263-1330

 **HIPRAC** 広島がん高精度放射線治療センター「ハイブラック」
Hiroshima High-Precision Radiotherapy Cancer Center
広島がん高精度放射線治療センター「ハイブラック」